

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：32606

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02224

研究課題名(和文)狭衣物語諸本研究 三条西家本を軸にして

研究課題名(英文)A study of the variants of the Sagoromo monogatari with a focus on the Sanjonishikebon

研究代表者

神田 龍身 (KANDA, Tatsumi)

学習院大学・文学部・教授

研究者番号：20177760

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究において、大きな成果は三条西家本『狭衣物語』がどのような特徴を持つのか、本文と物語内容の両面から明らかにしたことである。原本調査及び他本との校合により、中世に特徴的な用語の使用、独自の解釈による漢詩引用といった独自性が明確になった。

また、室町時代以降における書写活動を見渡すことを目的とした蓮空本の調査では昭和期にまで至る写本作成の流れと、三条西家・甘露寺家といった公家における『狭衣物語』書写活動の一端を明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：The main accomplishment of this study is a thorough study of the Sanjonishikebon, its particular characteristics, and the relationship between its textual language and its storyline. Collation and comparison with other variants brought to the fore unique features of this variant, such as its distinctive interpretation of the story through its citation of kanshi poems, and its use of terms particular to the medieval period.

Close study of another related manuscript, the Renkubon, was also conducted, a manuscript initially copied in the Muromachi period by the Kanroji family, and whose copying by other hands continued through to the Showa period. In so doing, the researchers were able to reveal the role played by aristocratic families such as the Sanjonishi and Kanroji in the manuscript tradition of Sagoromo monogatari.

研究分野：専門は平安時代の文学(物語・和歌)であり、エクリチュール/パロール、という観点から分析している。

キーワード：『狭衣物語』 本文研究 三条西家 蓮空(甘露寺親長)

1. 研究開始当初の背景

『狭衣物語』の諸本分類については、三谷栄一氏の分類(『狭衣物語の研究 伝本系統論編』笠間書院 2000年。初出は1938年)と、中田剛直氏(『校本狭衣物語 巻一』桜楓社 1976年)による分類がよく知られている。

それまで諸本研究は、近世の国学者である村田春海・清水濱臣らに名付けられた「古本」を軸に古本系統と異本系統という分類がある程度であったが、三谷氏は根本的な系統の樹立を目指し、諸本を通じて本文を三系統に分類した。ただし巻一のみは、物語の最初であるためか伝本が多く、四系統となっている。

一方、中田氏は集団や群の並列による分類をした。具体的には、巻一においては第一類本系統と第二類本系統に大別し、第一類本系統を第一種と第二種に、さらに第一種をA・B、第二種をA～Lに分類する方法である。

この二説を受け、後藤祥子氏は、新編日本古典文学全集『狭衣物語』(小学館 1999年)において、同一伝本について一括する意味で、中田分類を参照しつつ、その後刊行された資料を適宜補い、各伝本の巻々で最も特徴的な性質を中心的に四系統に分類している。第一系統本文は深川本、第二系統は為家本、第三系統は三条西家旧蔵(現学習院大学蔵)本の本文を中心とする写本、第四系統は元和九年古活字本が中心である。なお、こうした諸本の状況から、現在刊行されている注釈書の採択本文は第一系統の深川本が多いが、各本により異なっており、また深川本が巻四を欠くため巻四については別の本の本文を採用している場合が多い。

以上のように、『狭衣物語』の諸本分類は分類者によって大きく異なり、実際にどの分類に従っても例外が存在してしまうほど混乱している。それはひとえに『狭衣物語』が様々な諸本を抱えているからであり、現在、諸本研究が停滞してしまったのも、そこに原因がある。

2. 研究の目的

三条西家本(三条西家旧蔵、現学習院大学蔵本)という貴重な知的財産を活用し、諸本研究の新たな道筋を示すことで『狭衣物語』研究に寄与することが目的である。

「研究開始当初の背景」でも述べたように、三谷氏は『狭衣物語』の諸本を巻一のみ三系統、巻二～四を四系統に分類した。巻一のみ立てられた「第三系統」のなかでも重要な写本が、学習院大学に所蔵されている三条西家本である。巻一のみの零本であるが、諸本の系統を整理する上で非常に重要な写本として位置づけられ、本文の精査を行うことで諸本分類の再検討をはかる。

また、第三系統の本文が加わっているとされる写本に蓮空本(天理大学図書館蔵)があ

る。これは巻一～二のみの零本であるが、その蓮空本を江戸期に書写したとされるのが四高本(金沢大学図書館蔵)であり、その四高本をさらに昭和期に写したものとして、学習院大学は学習院本『さころも』を所蔵している。四高本・学習院本は失われた蓮空本の巻三・四を補うことができる。蓮空本は吉田幸一が古典文庫96『狭衣物語 蓮空本巻一・二』、97『狭衣物語 蓮空本巻三』、100『狭衣物語 蓮空本巻四』(古典文庫 昭和30年)において翻刻出版している。古典文庫では巻一～二は蓮空本、三～四は学習院本が使用されている。しかし、古典文庫の翻刻には学習院本の親本である四高本とは異同が見られるため、この三本の翻刻を見直す必要がある。

さらに、同じく学習院大学に所蔵されている伝中院通躬筆『狭衣物語』も対象とすることで、室町時代以降における『狭衣物語』の書写活動の何たるかを明らかにしていく。

そもそも『狭衣物語』は平安後期に成立した物語であるが、例えば同時期に成立したと考えられる『夜の寝覚』や『海人の菫藻』のように改作されることはなかったが、内容の改変を伴う諸本が膨大に残っている。平安後期から鎌倉期にかけて物語の改作はよく行われたものの、一つの作品が多様に变化する『狭衣物語』のような諸本状況は珍しい。また、同じく大量の諸本が現存する『源氏物語』は、むしろ本文の固定化へと向かい、物語内容が改変されるほどの異同はあまり存在しない。

つまり、『狭衣物語』は書写者によって大筋の内容は保たれながらも、物語内容が変容されながら書写されるという、自由な書写の対象であったと考えられる(「自由な書写」については、新美哲彦「鎌倉時代における『源氏物語』の書写態度 空蝉巻における陽明文庫本と玉里文庫本を通して」『国文学研究』157号、2009年に詳しい)。そのような享受状況であったことを考えると、『狭衣物語』全体を見通すためには各諸本がどのような意識で物語を変容させたのかを探ることが重要となる。本研究は、その一端を担うものであり、特に他の系統にない表現を持つ三条西家本においては、物語独自の論理が必ずや見つかるはずである。

3. 研究の方法

諸本系統の見直しのためにも、各本の詳細な調査が必要となる。そのため、写本ごとに以下のような方法をとった。

(1) 三条西家本『狭衣物語』

まずは書誌調査および翻刻を行い、それをもとに校訂本文を立てる。

三条西家本の内容面での独自性をはかるため、校訂本文をもとに細密な注釈作業を行う。その際は、先行作品の引用や引歌のありように注目するだけでなく、他本との異同を

調査したうえで独自異文には特に留意して読みの可能性を探っていく。『狭衣物語』の成立期だけでなく、書写された時期の歌語や語彙も視野に入れながら検討する。

(2) 学習院本『さころも』

蓮空本・四高本に関しては、それぞれ所蔵されている天理大学図書館・金沢大学図書館に赴き、書誌調査を行ったうえで、複写を用いて翻刻を進める。特に四高本は現在翻刻も影印も公開されていないものである。蓮空本の写しであり、学習院本の親本であるとはいえ、異同が存在する可能性もある。原本を慎重に検討することで、それぞれの写本の書写態度を精査していく。学習院本も書誌調査を行ったうえで、翻刻を進めていく。三本すべての翻刻が整ったところで、異同を比較検討し、それぞれの写本の特徴を精査する。

(3) 伝中院通躬筆『狭衣物語』

書誌調査および翻刻を行う。書誌調査においては、伝承筆者である中院通躬の妥当性も検討する。

上記(1)～(3)の調査結果をもとに諸本ごとの特徴を把握し、室町時代以降の書写活動と諸本系統の関わりを見直したい。

4. 研究成果

(1) 三条西家本『狭衣物語』

書誌調査、翻刻および校訂本文作成を行った。この校訂本文をもとに内容読解を精査し、三条西家本に特有の表現を見出すことができ、本文内容の考察を深めることができた。

先行研究において三条西家本は第三系統と分類され、四季本・宝玲本・文禄本と近接することが指摘されているが、本研究においてもその特徴は確認できた。しかし、これら三本と重ならない表現もあり、これまで指摘されていなかった漢詩引用と思われる箇所や、書写期である中世和歌の引用も発見された。特に語彙の面においては中世的用語の使用が確認でき、単に親本の書写にとどまらず書写時現在における語句を使用することで物語を理解しようとした可能性を示唆するもので、大きな成果のひとつである。

本文の特徴の指摘のみならず物語的意味を導き出す必要があると考え、校訂本文をもとに丁寧な注釈作業を行った。その際には他作品との引用も含め検討した「注」と、三条西家本の本文そのものについて検討した「本文考」を立て、三条西家本がどのような特徴を持つ写本であるか詳細かつ分かりやすく示すことに努めた。その成果は平成31年2月に書籍として刊行し世に問う予定である。

(2) 学習院本『さころも』

蓮空本(天理大学図書館蔵)、蓮空本を江

戸期に書写したとされる四高本(金沢大学図書館蔵)それを昭和期に書写した学習院本『さころも』の三本の書誌調査および翻刻・異同調査を行った。

この三本は同系統でありこれまでの研究においてはほぼ同列に見なされていたが、今回の調査により書写姿勢が異なることが明らかとなった。特に学習院本は四高本を書写する際に、四高本において補入記号によって示された本文を通行の本文の中に組み入れるなどの作業を行っているようである。さらに、朱の書入れがあるが、これは四高本を用いて書写した際に起きた誤りを訂正するために書き込まれたものであると考えられる。

これらの調査から、蓮空本・学習院本を底本とする古典文庫の修正が必要であるとの結論に達した。その成果として、巻一の補訂表を作成し発表した。

加えて、蓮空本の調査は(1)の三条西家本と合わせて考察することの重要性を導き出した。蓮空本は書写者が甘露寺親長(法名、蓮空)であることが明確であり、その書写の記録は彼の日記である『親長卿記』に記されている。一方、三条西家本は三条西公条の書写と認定されている。甘露寺家・三条西家は共に室町時代を代表する公家であり、親長が甥である三条西実隆(公条の父)の後見であったことから両家には親交があった。三条西実隆も『狭衣系図』及び『狭衣物語』をもとにした謡曲を作成しており、両家の書写活動は当時の宮廷社会における『狭衣物語』享受の様相も浮かび上がらせるのである。

両写本には共通する本文があるが、異なる本文も多い。自由な書写の対象であった『狭衣物語』をそれぞれの書写者によってどう書写したのかという実例がここにあり、一方で室町時代の公家たちがどのような態度で書写活動を行ってきたのかという点からも重要な諸本であることが明確となった。加えて、蓮空本は書写後、曇華院という尼寺に納められており、室町時代における尼寺の文化圏での物語享受の一端を明らかにする可能性をもつ写本であることも室町時代の書写を考える上で重要な視点であることが再確認された。

(3) 伝中院通躬筆『狭衣物語』

巻一の翻刻を終え、その成果を発表することができた。翻刻作業中に口頭発表も行い、書写者は中院通躬とは考えられないということを確認した。これは近世の写本であるが、版本と近似しつつも異なる表現を持つものであることが明らかとなった。

以上、(1)～(3)の成果が得られた。特に(1)と(2)は室町時代以降の書写や享受の様相を考える上で重要な成果を得ることができた。そして、その結果から『狭衣物語』の諸本研究には書写年代の共通する写本をもとに再考する可能性があること、また(3)

の成果をふまれば、これまでの諸本系統には当てはまらない写本をどう捉えていくのかという視点を持った諸本研究が今後必要であることが明らかになった。本研究においては独自の系統分類を立ち上げることで進み得なかったが、今後の研究の指針を示すことはできたと思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

神田 龍身、『狭衣物語』と『栄花物語』についての一考察 賀茂斎院神事の記事、高橋亨・辻和良編『栄花物語、歴史からの奪還』(森話社)、査読無、2018、印刷中

神田 龍身、青木 祐子、鈴木 幹生、勝亦 志織、近藤 さやか、千野 裕子、古典文庫『狭衣物語』(蓮空本)補訂巻一 蓮空本・四高本・学習院本との比較から、学習院大学大学院日本語日本文学、査読有、第14号、2018、18-31

鈴木 泰恵、『狭衣物語』と「見えぬ山路」『源氏物語』蓬生巻から飛鳥井女君物語へ、平安朝文学研究、査読無、復刊第26号(通巻第54号)、2018、28-32

青木 祐子、鈴木 幹生、勝亦 志織、近藤 さやか、千野 裕子、伝中院通躬筆『狭衣物語』巻一翻刻(下)、学習院大学国語国文学会誌、査読無、第61号、2018、16-33

青木 祐子、鈴木 幹生、勝亦 志織、近藤 さやか、千野 裕子、伝中院通躬筆『狭衣物語』巻一翻刻(上)、学習院大学国語国文学会誌、査読無、第60号、2017、32-52

[学会発表](計2件)

勝亦 志織、三條西家旧蔵『狭衣物語』における登場人物の語り方 天稚御子と源氏の宮から、物語研究会1月例会、2018、立正大学

勝亦 志織、千野 裕子、学習院大学文学部日本語日本文学科蔵伝中院通躬筆本についての一考察 本文系統の問題から、狭衣物語研究会、2017、奈良県女性センター

[図書](計1件)

学習院大学平安文学研究会、勉誠出版、三條西家本狭衣物語注釈、2019、印刷中

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:

発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

神田 龍身(KANDA, Tatsumi)
学習院大学・文学部日本語日本文学科・教授

研究者番号: 20177760

(2) 研究分担者

鈴木 泰恵(SUZUKI, Yasue)
岐阜女子大学・文化創造学部文化創造学科・教授

研究者番号: 80424828

(3) 連携研究者

勝亦 志織(KATSUMATA, Shiori)
中京大学・文学部日本文学科・准教授

研究者番号: 40458740

千野 裕子(CHINO, Yuko)
川村学園女子大学・文学部日本文化学科・講師

研究者番号: 60758267

青木 祐子(AOKI, Yuko)
学習院大学・文学部日本語日本文学科・非常勤講師

研究者番号: 70762376

近藤 さやか(KONDO, Sayaka)
中京大学・文学部日本文学科・非常勤講師

研究者番号: 60775534

(4) 研究協力者

鈴木 幹生(SUZUKI, Mikio)
芝中学校高等学校・教諭

陶山 裕有子(SUYAMA, Yuko)